

2023年11月6日

## 2023年度「自立援助ホーム支援助成」事業実施報告書

団体名 全国自立援助ホーム協議会北海道ブロック

ホーム名

代表者・役職名 氏名 本間征二・ブロック代表

## ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

## 1. 申請事業の名称

北海道ブロック連携強化事業

## 2. 自立援助ホームの概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

全国自立援助ホーム協議会の地域ブロックとして活動中です。現在21ホームが加入をし、地域ブロック独自の研修や相互交流、情報交換を行っています。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

北海道という広大な地域性であることから対面での連携を図るのが関東などに比べて頻回にはできません。また、6名定員のホームが多く、ホーム同士での研修や情報交換の機会を創るにも、それぞれのホーム運営で手一杯な事情がありました。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

児童相談所との情報共有のために北海道内の各児童相談所を訪問し、情報交換と自立援助ホームの事業啓蒙を行った「訪問活動」、各ホーム代表者が参加し、現状や制度理解、情報交換、困難事例の対応検討を行った「連絡協議会」の開催、自立援助ホームふくろうの家の元ホーム長を講師に、自立援助ホームの支援にとって必要なことを学んだ「研修会」の開催、北海道内自立援助ホームの状況をまとめた「パンフレット」の作成の4つに取り組みました。

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

訪問活動～自立援助ホームの現状をお伝えし、今後の連携を確認することが出来ました。現在のところ直接的に問い合わせが増えたりということはありませんが、「今後所内で理解を深め、自立援助ホームの活用を推進したい」とお声をいただいています。

連絡協議会～6月に札幌でオンラインを併用して開催し、17ホームのホーム長が参加。児童相談所の現状共有、今後の地域ブロックの活動の検討、後半は困難事例の検討や制度理解の情報交換を行いました。顔を合わせることで、相互理解が広がり今後の連携促進の一助となりました。

研修会～8月に函館でオンラインも併用し、ふくろうの家の元ホーム長である高橋氏を講師に研修会を行いました。自立援助ホーム関係者41名、函館児相の所長も参加していただき、自立援助ホームの支援にとって必要なことを学び、後半にはグループワークで学びを深めました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回の事業実施をきっかけに、ブロック内での連携や役割分担などを整備することが出来ました。今後は、ブロックとして北海道や札幌市などの行政への働きかけや政策要望などを行ったり、研修会を定期的に行うことで、ブロック全体の底上げを図り、社会的養護の中での自立援助ホームの位置づけを強固なものにしていきたいと考えています。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

The collage contains the following materials:

- 自立援助ホームってどんなところ?**: A brochure explaining that self-support homes are for people aged 15-22 (or 25) who have difficulty living independently. It lists benefits like safety, security, and the ability to learn life skills. It also mentions that some homes have job training or support.
- 入居までの基本的な流れ**: A flowchart with five steps: 1. 入居相談 (Consultation), 2. 説明/見学 (Explanation/Viewing), 3. 体験入居 (Trial Stay), 4. 意思確認 (Confirmation), 5. 入居 (Move-in). Each step includes a brief description of what happens.
- 大切にしている3つの要素**: A diagram with three circles: 1. 主体的な保証 (Individualized Guarantee), 2. 退居者支援 (Support for Residents Leaving), 3. 居場所の確保 (Securing a Place to Live). Text explains that these elements ensure safety and security, support for future independence, and a stable living environment.

